

河環研だより



1. コイ春ウイルス血症に注意!
2. 魚病診断・技術相談について
3. 日本生態学会論文賞を受賞

1. コイ春ウイルス血症(SVC)に注意!

農林水産省は、中国産金魚からコイ春ウイルス血症(SVC)ウイルスが検出されたため、中国産の金魚等の輸入に際して検疫を強化することを発表しました。これは、日本で未発生の病気であるSVCの国内進入を防止するための措置です。SVCは、主にコイ科の魚類に発病するウイルス病です。コイヘルペスウイルス(KHV)病と同様に持続的養殖生産確保法における特定疾病に指定されているため、もし日本で発生した場合は、まん延防止措置(感染魚の移動制限、焼却処分等)の対象になります。コイ以外の魚にも感染するため、まん延するとKHV病より深刻な被害を及ぼすおそれがあるので、一層の注意が必要です。万一、現在飼育している金魚やコイ等に下記の異常が見られる場合は水産課(058-272-1111 内2893)または研究所にご連絡ください。

(担当 三浦 航)

病原体	コイ春ウイルス血症(SVC)ウイルス
感染する魚種	主にコイ、フナ、キンギョ、ソウギョ、ハクレンなどのコイ科魚類
症状	腹がふくれる、体表等に出血する、眼が飛び出るなどの症状が見られ、死亡率が高い。
感染経路	感染した魚から水を介して感染する。
発症水温	10～15 で発病しやすい。
潜伏期間	7～15日
発生国	ヨーロッパ諸国、アメリカ合衆国、中国
治療方法	現在のところ有効な治療方法はない。
その他	人への感染はない。

平成20年4月4日農林水産省の発表

今般、香港経由で英国に輸出された中国産金魚から、コイ春ウイルス血症(SVC)ウイルスが検出されたことが判明しました。SVCはコイや金魚等のコイ科魚類等に発生し、体表への出血等により死亡しますが、有効な治療法がないこと等から、我が国の輸入防疫対象疾病になっています。このため、中国産の金魚等の輸入に際し、水産資源保護法に基づき、輸入許可に当たり、一定期間の隔離管理を命令することとしたのでお知らせいたします。

特定疾病とは

国内における発生が確認されておらず、又は国内の一部のみに発生している養殖水産動植物の伝染病であって、まん延した場合に養殖水産動植物に重大な損害を与えるおそれのある病気

SVCを発症したコイ



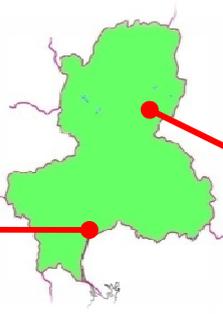
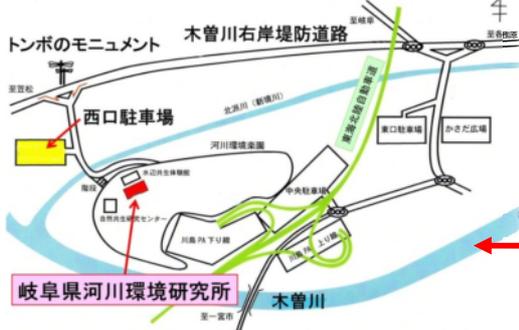
提供:英国環境・漁業・養殖科学センター(Cefas)

2. 魚病診断や技術相談について

河川環境研究所では、養殖業者等の皆様からご依頼のあった魚病診断や技術相談について、**魚種に係わらず**、本所（各務原市）と支所（下呂市）の両方で受け付けて来ましたが、本年度から両所の担当地域を次のように分けましたので、ご協力をお願いします。

本所：美濃地域（中津川市、加茂郡白川町及び東白川村を除く。）

支所：飛騨地域、中津川市、加茂郡白川町及び東白川村



本所にお越しの際には、河川環境楽園の西口駐車場を利用すると便利です。西口駐車場へは、木曽川右岸堤防道路から入ることが出来ます。トンボのモニュメントが進入口の目印です。

支所は、県の下呂総合庁舎の北側（裏）にあります。国道41号線から朝霧橋を渡ったときに右に見える建物が下呂総合庁舎です。

3. 日本生態学会論文賞を受賞

第55回日本生態学会福岡大会において、米倉竜次主任研究員が、第8回 *Ecological Research* 論文賞を受賞しました。この賞は、毎年、掲載された論文の中から、優れた論文2編程度を選考しそれらの著者に贈られるものです。

これまで、米倉主任研究員は、共同研究者らとともに主に以下2点を明らかにしてきました。

1. 日本でみられる外来魚ブルーギルは、ミシシッピ川から持ち込まれたわずか18匹の共通祖先であり、生存や適応に重要な遺伝的多様性を消失していること
2. 遺伝的多様性を消失しているにもかかわらず、環境中の餌生物に対する形態・生態的な局所適応がみられ、その結果、日本の生物へのブルーギルの侵害性が増加していること

今回の受賞論文では、これらの成果もふまえて、遺伝的多様性が低いと局所適応が起きにくいという一般的予測が、多くの外来生物で当てはまらないことを示した研究として評価されました。

